

## 地域ケア会議で出た課題の検討について

南部箕蚊屋広域連合では、町村ごとに地域ケア会議を開催し、地域の方や専門職と協議し、地域課題の整理・確認・検討を行っています。令和3年12月時点の状況について、以下のとおりまとめました。

(令和3年12月末時点)

町村	地域の現状	地域課題	検討状況
南部町	ゴミ出しやゴミの分別ができない人が多くなっている。	ゴミ屋敷の問題が顕在化してきている。	分別方法（写真・仕分けBOX） 収集日を知らせる仕組み 問題を相談できる人や場所の明確化
	バスの乗車方法が変更となり公共機関の利用ができない人がいる。	公共交通機関の利用ができなくなった。	バスの運行会社と協力していく。
	障がいのある人に対する理解や協力を得たいがどのようにしたらよいかわからない。	地域の見守り体制を構築していく必要がある。	本人を把握している人で情報共有していく。 関係者全員で共通認識を持つ。
伯耆町	『地域の見守り支援』  独居や高齢者世帯が増加しているが、地域の関係が希薄になりつつある中で、地域での見守り体制を再構築する必要がある。	地域によって、近隣での見守り体制が整っている地域とそうでない地域があり、町内でも地域の見守り体制に差がある。  地域での見守り体制として、地域でのサロン活動等が考えられるが、世話役等の存在が居るか居らないかで大きく差が出る。最近では区長の成り手も少ないといった声もある。	集落ごとの取り組み状況の一覧表や老人クラブの有無等を色分けしたマップを作成しており、それをもとに地域に向き実態や課題を収集する必要があるが、コロナの影響で積極的に向くことが困難。引き続きマップの活用を検討していく。  社会福祉協議会や老人クラブと協力し、地域での通いの場の創出を目指している。既存の取組を維持し、新たな地域での取組を創出できるよう、各集落への働きかけ、通いの場づくりを推進していく。
	『地域と介護・医療職の連携』  家族関係が希薄となりつつあり、公的サービスだけでは高齢者の支援が不十分となり、地域と介護・医療職との連携が求められている。	ケアマネジャーから民生児童委員や区長と連絡をとりたいといった相談がある。 サービス提供時に地域との連携が必要となる場面が出てきているが、地域との関係性ができておらず、連絡がとりにくい状況にある。  独居高齢者や高齢のみの世帯で、ゴミ出しが困難という相談があり、支援に工夫を要している。	民生児童委員とケアマネジャーとの意見交換会の開催を検討している。昨年度から計画をしているが、コロナの感染拡大等により延期している。令和4年2月に開催予定としており、コロナの感染状況に留意する必要があるが、開催の方向で検討している。  ヘルパーの生活援助でゴミ出しを介助することはあっても収集日の朝に対応することは困難。そのため、区長に前日のゴミ出しを配慮してもらえるよう相談する場合がある。（地域の理解） 今後、地域でのボランティア活動で取り組むことができるよう、社協を中心に老人クラブ等への働きかけを検討している。
	『移住者支援』  町内に別荘地が点在しているが、一部定住者もおられ、開発時期から一定期間が経過し、高齢者が増えてきている。	居住者が限られ、それぞれが移住者であるため、地域との関係性がより一層希薄である。「地域で交流できる場があれば」と言った声もある。	管理事務所から認知症サポーター養成講座の開催依頼があった。これを機会に、地域の実情を管理会社と共有し、定期的に集まれる場所の創設を目指している。 また、これをモデルケースとして、他の別荘地へ取組を広げていきたい。
	『免許返納後の生活支援』  高齢者による自動車事故の報道により、免許を返納する高齢者が増えてきた。しかし地理的に自動車が無ければ、生活が成り立ちにくい地域が多く、運転を辞めると言う決断は簡単ではない。	自身の運転能力の衰えや、子供らの説得で免許を返納したのは良いが、買物、金融機関、役場などに行く手段がない。 デマンドバスの活用も考えられるが、バスに乗る習慣がなく活用には至らない。  買物は、自分で選んで購入したいと考える方が多い。ヘルパーの買物代行では、自分で選ぶことができず、支援に繋がらない場合もある。	シニアカーのレンタル等の問合せも増えてきている。出かける手段の1つとなるが、地域特性に左右されることと、道路環境が整っていない（歩道等）こともあり、積極的な利用促進に向かいづらい。 デマンドバスの利用について、利用方法を詳しくCATVで流すなどの検討を行っている。  食の確保が最優先となるため、宅配弁当を紹介することが増えている。 生協等の利用も考えられるが、利用方法が複雑で、高齢者に紹介しにくい。 移動購買車や商店については、民間企業の取組となり、共助交通は地域での取組となるため、解決策の検討が難しい状況となっている。

町村	地域の現状	地域課題	検討状況
伯耆町	『認知症の正しい普及啓発』 認知症独居や高齢者のみ世帯全員が認知症というケースが増えてきている。	認知症の有無に関わらず、住み慣れた家での生活を希望する方が多い。様々なサービスや地域資源を活用していくが、地域からは心配な声も大きくなり、理解や配慮等の対応も必要となる。	状況から周囲が施設入所を進めたいと考えても、本人たちの同意が得られにくい。家族や地域の見守りが、特に重要となるが、認知症に対する理解が進んでおらず、引き続き認知症に対する正しい知識の普及啓発が必要となる。
日吉津村	自治会公民館までの移動、医療機関受診のための移動、生活支援(買い物等)と併せた移動、公共交通機関が利用困難となること、免許証返納、免許証返納後の移動や生活支援への不安の訴えが現状としてある。	移動の支援	協議体において〈自治会公民館までの移動〉に着目して社会福祉協議会と協力し活動を行った。
	独居・高齢世帯や日中独居で近隣と付き合いがない、気になる方はいるが様子が分からない、認知機能が低下している方への見守りの仕方が分からないという現状がある。	声かけや見守りの支援	・社会福祉協議会にて支え愛訪問やマップ座談会を実施。モデル地区にて地域での見守り体制づくりの活動を行った。 ・社会福祉協議会が実施した支え愛訪問から自治会での見守り体制についての気付きがあり、生活支援を始められている方もある。
	介護サービス未利用者に対する買い物支援やゴミ出し、食事等の支援、軽作業を頼める人が居ないという現状がある。	介護保険外の生活支援	
	主介護者の体調不良や負傷、主介護者の精神的負担、主介護者の認知症に対する理解、主介護者を支える協力者の不在という現状がある。	介護者の支援	・関係者間で連絡会を行い情報共有し、なるべく早い段階で同行訪問等の介入や検討を実施した。(成人保健部門、居宅介護支援事業所、介護予防事業担当者)